

様式第2号

平成27年度 安曇野市地域包括支援センター運営協議会(第3回) 会議概要

1	審議会名	平成27年度 第3回地域包括支援センター運営協議会
2	日時	平成28年3月16日(水) 13時30分から15時00分
3	会場	安曇野市役所本庁舎 3階 全員協議会室
4	出席者	宮澤会長、勝山副会長、佐藤委員、西委員、高山委員、左々木委員、高橋委員、湯澤委員、宮下委員、岩原委員、黒澤委員、増田委員、奥永委員 欠席：若宮委員
5	市側出席者	宮下保健医療部長、場々介護保険課長、西澤介護保険担当係長、木村介護保険担当係長、古畑介護予防担当係長、平田認定調査係長、新保介護予防担当係長 東部地域包括支援センター：藤澤(芳)主任介護支援専門員、藤澤(宏)保健師、宮入社会福祉士 南部地域包括支援センター：山岸看護師、丸山主任介護支援専門員、岡村社会福祉士 北部地域包括支援センター：渡邊主任介護支援専門員、佐藤社会福祉士、蛇平社会福祉士、伊藤保健師
6	公開・非公開の別	公開
7	傍聴人	0人 記者 0人
8	会議概要作成年月日	平成28年3月25日
協 議 事 項 等		
I	会議の概要	
1	開会	
2	部長挨拶	
3	会長挨拶	
4	協議	(1) 平成28年度介護予防支援業務委託先事業所の承認(案)について (2) 平成28年度安曇野市地域包括支援センター設置運営方針(案)について (3) 平成27年度介護予防支援業務委託先事業所の承認(追加)(案)について (4) 地域包括支援センター自己評価について (5) 地域ケア個別会議から把握された課題に対しての解決策の検討
5	その他	
6	閉会	
II	協議内容	
4	協議	(1) 平成28年度介護予防支援業務委託先事業所の承認(案)について 《質疑なく承認》  (2) 平成28年度安曇野市地域包括支援センター設置運営方針(案)について 《質疑なく承認》  (3) 平成27年度介護予防支援業務委託先事業所の承認(追加)(案)について 《質疑なく承認》  (4) 地域包括支援センター自己評価について 委員：自己評価の結果はいつ示すか。 事務局：5月の運営協議会で結果をご報告する。 委員：包括支援センターの活動などを、一般の方があまりにも理解していないと思う。広報に包括支援センターの活動について載ったが、包括の対象とする年齢、高齢者の介護支援につい

て周知していかなければならないのではないか。

事務局：基本としては高齢者を中心にということだが、広報等で引き続き周知していく。

《質疑なく承認》

(5) 地域ケア個別会議から把握された課題に対しての解決策の検討

委員：足の確保について、特養の入居者の家族も高齢化してきて車の運転が危険だなと思う。具体策が早く出てくると良いと思う。

委員：家庭への訪問をしている。認知症の方が出かけるのは難しい。出掛けるのは元気な方が多く、認知症の方が家にこもらないためにも居場所づくりは大切だと思う。

委員：昔と違って介護をやりながら子育てをするなどの厳しい内容の家庭もある。地域の人たちを巻き込んだ活動を今後やっていかないといけないのではと感じている。

委員：認知症に関わることで、社会福祉協議会で、支え合いの制度をやっているかと思うが、それとはどういった関係なのか。認知症カフェについて三郷の方で行っているとあるが、現状はどうか。

事務局：認知症カフェは、三郷に1か所あり月1回程度の活動。4月から成相と穂高会館で立ち上がるので3箇所になる。認知症に特化したものではなく、サロン等の活動は各地域でも行われている。見守り協定では、社協でやっている福祉員の活動と、見守りの活動も併せて協定という形でやっていく。社協とも連携をしていく。

委員：閉じこもりの方への支援ということで、具体策に実態把握と出前講座・認知症サポーター養成講座による周知とあるが、実際はどうか。

事務局：閉じこもっている方は中々出てこないで、来ている家族の方や地域の方に周知している。講座数は増えており、それを聞いて具体的な相談のため包括に来所する方は増えている。

委員：関係者との連携というところで、身体障がいの分野も総合相談支援センターも知られていない。個別のケア会議、事例の積み上げがないと、上手く対応できていない部分も多いと反省している。障がいの分野では、足の確保というところは地域だけでは解決できないので、県の協議会でワーキンググループを立ち上げ議論している。多職種連携で取り組んでいかないと実現しない大きな課題だと思う。

委員：認知症カフェについて、月1開催が多くて、開催日が分からなかったり、閉じこもりがちな方に来ていただきたいのに、具体的な情報を伝えるのが難しい。運営の仕方を考えていかないと難しいのではないかと思った。

委員：認知症カフェの関係で、理想を言えば毎日開催してほしい。社協のサロン等も月1回が限界で、もっと増やせれば認知症の方の対応もできるのではないかと思うが、限界があると感じている。

委員：この課題というのは誰に知ってほしいのか。具体策にも具体性がない。どうやってやるのか、中身や対応の仕方まで書いていかないと分からない気がした。

事務局：この課題を広めていくには、地域の人は何をどのようにしていけばいいのかを示していくことが今後の地域包括ケアシステムの推進に繋がっていくと思うので工夫する。

委員：ケア会議の資料のようなものを、いずれは公表することも良いと思う。

事務局：事例集のようなものを作ってほしいと思う。

委員：接し方の理解の部分で、介護保険事業所との連携した研修会の開催とある。通所部会の事業所は市内に56か所ある。現場で認知症の方と接し方に苦労していると聞いており、学べる機会がほしいという声が挙がっている。包括と情報を共有してお互いが学べるようなシステムを作っていけたらと思う。

委員：個別会議の課題とか地域包括支援センターに期待される役割が大きくなるが、3職種のうち保健師がいない地域包括支援センターへの対応はどうか。

事務局：検討し回答する。

委員：認知症で悩みを抱えている家族は何名もいる。地域には高齢者の集まる場所がたくさんあるので。そういう場で専門家の方に来てもらい、お話ししてほしい。

委員：受診するにも病院に付き添う人がいない。有料でもかまわないから付き添い等のボラン

ティアでも作れないかと思う。大学病院等は機械化が進んでいて、会計等も高齢者には難しい。病院やなにかに詳しい人のボランティアもあればとても便利かと思う。

(第3回地域包括支援センター運営協議会閉会)